

国際ロータリー第2510地区
2008～2009年度

ガバナー月信

No.2
2008
8

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510
2008-2009
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



国際ロータリー第2510地区

2008～2009年度 ガバナー 矢橋 温郎 HARUO YAHASHI

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F

TEL(011)207-2510 FAX(011)207-2512 e-mail:rid2510@nifty.com

ホームページ: <http://www.ri2510.gr.jp>



RI国際協議会(カルフォルニア、サンディエゴ)にて

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510

目次

CONTENTS

- 1 ————— ガバナーメッセージ
- 2 ————— 会員増強・拡大月間にちなんで
- 3 ————— RI会長主催会議(会員増強)に出席して
- 5 ————— 2008年 国際ロータリー年次大会の参加報告
- 6 ————— 2008-2009年度 地区委員会活動計画
- 12 ————— 例会曜日・例会時間・例会場の変更等について
- 13 ————— 私の“Rotary Notes”
始祖ポール・パーシー・ハリス
- 15 ————— ガバナー補佐レポート
北海道のロータリー誕生と第7グループの存在
- 16 ————— 2008~2009年度 地区大会のご案内
- 17 ————— 2011-2012年度 ガバナー・ノミニー候補者推薦のお願い
文庫通信
- 18 ————— ホームページでおなじみの「源流」セミナーのご案内
第15回 GSE相手地区決定
- 19 ————— 地区ホームページの紹介
- 20 ————— 地区カレンダー(8月・9月)
- 21 ————— 世界のロータリーマガジンから

ガバナーメッセージ



妻から学んだ国際交流の極意

国際ロータリー第2510地区
ガバナー 矢橋 温郎
(札幌西RC)

8月になりました、新年度も、もう1ヶ月経過しました。会長・幹事さんにおかれましては、例会の進め方もスムーズに馴染んできたところでしょうか。新鮮な緊張感を維持しているうちに、もうすぐお盆休みです。多くのクラブで例会をひと休みさせることでしょうか。新年度がスタートして、1ヶ月経ったら全国的なお休みです。ゴールデンウィークもそうですが、ひと息つけるようにうまくできております。

「5月病」は新入社員に蔓延しがちです。ロータリー年度では、さながら「8月病」とでも申しませうか。今月が会員増強月間なのは、仲間を増やして「8月病」を忘れませう、とのRIの意向かと言われてもしようがありません。お盆明けも引き続きロータリーを楽しみませう。さて、8月に特別な思い入れのある方は、特に私の世代には多いことでしょうか。私は11歳のとき、地元の岐阜で終戦を迎えました。

この稿を借りて、妻を紹介させてください。

妻の父親は、広島で被爆し、翌日亡くなりました。優秀な医師だったそうです。岡山県内で開業していましたが、出向いた先での被爆でした。母親はその前に亡くなっているため、昭和20年8月7日から妻たち4人の兄弟姉妹は、親のいない苦勞を背負うことになりました。だからといって妻は、原爆を落とした米国を悪く言うことはありません。それどころかロータリー青少年交換事業では、米国からの受入学生のホストファミリーを積極的に引き受けてきました。驚くほどの溺愛ぶりです。妻にとって、原爆を落とし、父親を奪った敵国の娘たちです。彼女たちは「お母さん」の生い立ちを知りません。交換学生といっても高校生。話せばショックは如何ばかりかとの配慮かと思っていました。が、「ただ話すのが面倒だっただけ」と妻は片付け、それよりも翌日学校へ持って行く弁当のおかずを悩ませます。

妻は、英語が不得手です。それを有効活用し、原則、日本語で話しかけます。大きな声で、はっきりと。日本語がわからないはずの学生に、これが不思議と通じます。日常生活は、それで不自由しません。意思の疎通も図れます。同時期に来日した学生のなかで、我が家で預かった子もっともきれいな日本語を話したことも。中途半端に英語を使われるよりも、より多くの日本語を覚えることができたこと、このホストマザーの評判は頗るよかったです。私も、英語は不得意です。これまで百数十カ国・地域を訪れました。英語が喋れれば、現地の様子もより深く理解できたかもしれません。では英語が流暢ではないから危険に晒されてばかりかといえそうでもなく、うまい具合に毎回安全に帰国しております。

英語がわからないというのに、GSE委員や国際友好委員長など海外と接する役回りを仰せ付かってきました。英語が使えれば、委員会活動にもっと貢献できたかもしれません。が、こうした委員会には必ず語学堪能なロータリアンがいらっしゃるものです。英語ができないなりに、国内向けの仕事もまた委員会にはたくさんございます。微力ながらお手伝いできる場面は意外にあるものです。英語ができなければ国際奉仕や財団の活動には寄与できないという先入観は、おかげで取り払われました。ガバナーは英語が喋れなければ務まらないという思い込みも、サンディエゴの国際協議会で払拭できました。でも、やはり、世間話程度でも言葉は喋れるに越したことはありません。

先月、洞爺湖でサミットが開かれました。交通規制で動き辛かろうと、公式訪問は思い切って大幅にずらしました。そのため、例年地区大会までに終える行程も、年末近くまでずれ込みます。あわてて回るよりも、ゆっくりみなさんとお話できるよう、スケジュールを組んでみました。多くのガバナーが安堵感からか、地区大会を終えた直後に体調を崩すそうです。大会後も公式訪問が続く今年、体力維持が個人的重要課題です。74歳の年相応にケアしてはきておりますが、身体により取り組みがございましたらガバナー事務所までご一報ください。



会員増強・拡大月間にちなんで

国際ロータリー第2510地区

地区会員増強委員長 PG 酒井 正人
(函館五稜郭RC)

8月は会員増強および拡大月間です。会員増強には、新会員の勧誘、現会員の退会防止、および新クラブの結成（拡大）があります。これらの目的達成のためには、1人でも多くの適格者にクラブに人会したいという興味を与えるため、また、クラブ会員の減少を防ぐために、地元地域社会への奉仕を維持、改善し、個々の会員を効果的に参加させ、その関心を絶えず引き付けるような活動を行うべきでしょう。

それには、次の諸点が主要な要素とみなされます。

- 1) 会長の強いリーダーシップ
- 2) オリエンテーション、入会式、クラブ活動に溶け込むこと、あるいは参加することを網羅した新会員のための充実したプログラム
- 3) 会員間の適切な競争と新会員の推薦者の表彰
- 4) 会長およびガバナーが成長しているクラブと地区内の会員増加を適切に表彰し、現会員の退会防止を図ること
- 5) 妥当な会費、地域社会に対するロータリーの奉仕とロータリアンならびにその家族が受けるロータリー・クラブ会員の恩恵を強調する注目に値するようなロータリーの広報

個々のロータリー・クラブとしては適格者にロータリーに人会したいという興味を与えるため、また会員の減少を防ぐため、クラブは次のことを行わなければならない。

- 1) 潜在的な職業分類を探るために地域社会内の事業および専門職の業務を特定し、これらの職業分類に該当する資格ある候補者を探し出すこと
- 2) 奉仕活動を常に地域社会にとって意義あるものにし、プロジェクトと奉仕活動について地域社会に効果的に知らせる
- 3) 個々の会員を効果的に参加させ、その関心を絶えず引きつけるようなクラブ活動を行うこと

具体的に新会員を増やす事としては、目標を数値化することが大切です。その他に入会见込みのある人には担当者を2人つけて、ロータリーの例会に来てもらう、月1回をビジターの日として例会を見てもらう、ロータリー財団学友・ローターアクターなどは一度ロータリーの活動を体験しているのでロータリーのことを理解しているのだから中から探す、会員が知り合いをリストアップする、現在ビジネスの世界で有能な女性が多くいるので女性会員の入会を奨励することや、ロータリーの素晴らしさを理解してもらうための広報の充実が必要です。

会員維持（退会防止）は新規に客を開拓するより、既存のお得意様を維持する方が、より効率的で簡単なように、退会理由の分析をして防げるものが無いかどうかを検討して改善に努めることです。止むを得ない退会には死亡退会や事業の撤退（縮小、廃業、倒産）がありますが、退会を防ぐことが出来る可能性があるものとしては、最初の1年、2年で失望して辞めていく（価値観の相違）場合や、排他的で口では新会員といいつつ、実際に新会員を歓迎していない場合や、特定の会員による事業上の利害関係を優先させた上下関係や人間関係があり、クラブに入り込むことが出来ない場合があります。ロータリーの新世代に対して、活動しやすいような土壌をつくってあげる必要があります。彼らがもっと自由に、もっとフレキシブルにロータリー活動を容認することも必要でしょう。クラブに馴染んでもらうためにはCLPの導入により会員の情報の共有や積極的なクラブ運営に関与を促すことや、新入会員に対するオリエンテーションの充実をしてフォローアップして行くことが必要でしょう。

新しいクラブの設立（拡大）には、既存のクラブのクローンをつくるのではなく、今までと全く違ったクラブをつくるという発想を持つことが必要ではないでしょうか。例えばイブニングクラブ、モーニングクラブや「かながわ湘南RC」のような若い人や低会費で運営するクラブや女性だけのクラブ等と発想を変えてみることも必要なかも知れません。

RI会長主催会議（会員増強）に出席して

2008年7月7日ホテルグランパシフィックLE DAIBAで国際ロータリー2008-09年度RI会長主催会議（会員増強）が開催された。年度を通じて世界の12カ所で開催されるこの会議では、クラブの会員増強のためのアイデアが話し合われる。ロータリー・クラブを対象として行われる同会議は、小グループによる討論が行われ、会員の勧誘と維持の最善の方法は何か、さらには変化に対する適応について討議が行われる。対象者はクラブと地区の会員増強委員会委員長と委員、クラブ会長とクラブ役員、地区ガバナーと地区役員となっていて、当地区からは矢橋温郎ガバナー、渡邊恭久ガバナーエレクトと地区増強委員長の私の3名が出席した。李 東建RI会長は年度最初の訪問国に日本を選んだが、この度のRI会長主催会議には1200名を超えるメンバーが集まり、過去最高の参加であった。

プログラムは9：30から10：30までは李 東建RI会長とRonald L. Beaubien RI会員増強・会員維持委員長の基調スピーチがあった。



李 東建RI会長基調スピーチでは、「父親が韓国のソウルロータリークラブメンバーであった時は、韓国は貧しく、またロータリーメンバーも少なかったが、父親は私にロータリー・クラブの将来性を評価していたし、韓国の将来の成長に対しても希望をもっていた。そして現在、韓国は経済成長を果たしている、地域でのロータリーの必要性は低下していないし、世界の中で膨大な数の子供たちが死亡している現実がある。26000人の子供たちが毎日死亡している。しかも、これらは避けることのできる原因によって多くが死亡しているのです。ロータリーが提唱している水、健康、飢餓、識字の進展によって避けることが出来るのであります。私は幼児の死亡率が減少している事にロータリーが貢献していると思う。世界でロータリーが発展することで子供達を救うことが出来ます。世界の子供たちが救いの手を求めているのです。地域社会のニーズに対応し健康と希望を増強する責務がロータリーにあり、その責務を果たすことは“会員増強の考え方を考える”ことにあります。今まではクラブの2~3のメンバーしか会員増強を真剣に考えていなかったし、もっと緊急なテーマの陰に隠れていました。ロータリーのメンバーは長年の間120万人程度で停滞しているのに、世界からロータリーへの“ニーズ”が年々増大している。その世界のニーズへ我々の責務を果たすためには多くのクラブを創設し、クラブ会員を増強することが必要になります。だから、私は10%の会員増強と、一地区あたり2クラブを創設いただきたいとお願いしています。この目標を実現させるためには、ロータリアンにふさわしいメンバーを我々が探し出すことであり、これから入会するロータリー会員は地域社会で年齢、職業が違う人たちであり、新入会員が皆様のクラブを刺激し、発展する中心メンバーになることを夢見ていただきたい。」との趣旨の話をされた。

続いてRonald L. Beaubien RI会員増強・会員維持委員長の基調スピーチでは、「ロータリーには変化が必要になっている。将来のニーズと様々な課題への対応をするための変化が必要になっている。決まりきったことをしているのは安心かも知れないが、それでは現状維持どころか衰退する。時代遅れの方法が問題を解決するのをさまたげている。むしろ、決まりきった方法で続けることで問題を拡大することになる。変化を恐れずチャレンジすることが一番大事であり、新しい考えを恐れない、恐れるのは古い考えを変えないことであります。クラブには若い会員が必要なのはみんな知っている。もはや、ランチョンロータリーには若い人たちは入会しません。社会奉仕団体は急激に成長しているのが現実です。今日の若い人たちは仕事が忙しくても意味があってやりがいのある奉仕活動をしたいという今まで以上の意欲を持っています。だからこそ奉仕団体は拡大しているのです。」との趣旨の話をした。

10:30から12:30までは6クラブによる実例発表が行われた。

第2530地区いわき桜ロータリー・クラブ（女性会員で活躍）赤間幸子会長

日本では女性だけのクラブ唯一である。20名で設立し現在19名。主な活動は、白血病の映画の上映を通じて骨髄バンクへの協力や、継続テーマを持つことを前提に、女性ならではの発想から子育てにかかわる幼児教育を継続テーマとして取り組み、定期的な勉強と、幼稚園訪問、小さな子供を持つ母親を招待してワークショップ「子育てサロン」を継続している。

第2750地区東京中央ロータリー・クラブ、勝屋俊夫元会長（直前ガバナー補佐）

37名でスタートし10年目1997年137名で100名の増強を実現している。その後、紆余曲折を経て昨年度は210名でスタートし6月末で235名となり25名の純増となった。クラブの会員増強の考え方は、創立時はクラブの生存権をかけての増強であった。それは名門ホテルでの例会で37名のメンバーでは固定された会場をホテル側で与えてくれなかったのが大きな動機であったと思う。



第2780地区厚木県央ロータリー・クラブ、北村正敏直前会長

（33名→45名）

創立して10年のできたてのクラブである。昨年14名入会し、2名が退会している。年度末の退会者はゼロ。クラブの特徴は創設時、特別代表から「新しいロータリーを作るように」と要請され、その精神は現在にもつながっている。特に「公開例会」を継続している。公開例会でも点鐘をはじめしっかり例会をしている。

第2660地区大阪ネクストロータリー・クラブ、杉浦功一直前幹事

設立して一年に満たない。財団学友が中心になっている。神奈川湘南ロータリーに次ぐクラブであるが、規定改正後結成された最初のクラブとなる。22名で学友8名、交換3名その他11名の構成。職業分類は大学教員5名、音楽家などバラエティーに富んでいる。最年長が47歳、最年少は30歳で団塊世代のジュニアが中心構成。若手が中心で職場も遠いメンバーが多い。会場はただで、食事もなしの例会にしている。

第2760地区名古屋東南ロータリー・クラブ、伊藤秀雄直前会長（67名→93名）

「会員増強はだれかがやるだろう」という意識で会員が減少しているクラブであった。会長年度の初めに「チャレンジ100」をテーマに、一年間で28名の増強をし、現在93名になった。どんなことを言っても、クラブ会長、幹事、増強委員長の名が一生懸命やらなければ実現しない。ビジターフィーを取らないで例会に友達を連れていくことを奨励している。

第2730地区指宿ロータリークラブ、野田博隆直前会長（42名→51名）

18年前の52名をピークであったが、3年前32名まで減少したことに危機感をもって会員増強を実施した結果である。クラブで実践したことは、勧誘用の独自リーフレットを作成して目当ての人に渡す。毎月一回新入会員へ情報委員会での勉強会を実施したことで退会を防止することにつなげた。増強委員長、会長が熱心でなければ増強は実現しないと痛切に感じている。また、新入会員の入会後のケアが大事とも思っている。

13:30から16:30 グループ討議とグループ討議の発表。

参加者を10人程度100のテーブルに分けて会員増強、退会防止についてのワークショップが行われ約20のテーブルの代表から熱心な報告がされた。

16:30 その後質疑応答と挨拶があった。

李 東建RI会長は「韓国のロータリアンは日本のロータリーとロータリアンを尊敬しているし、手本ともしている。会員数は世界の2番であるし、ロータリー財団への貢献も2番目である。つまり、本家である米国を除けば1番です。しかし、その座を奪おうとしている国もあります。私は日本の皆さんがこの座を守ろうとするなら、如何なる協力も惜しみません」との挨拶をして、この度のRI会長主催の会員増強に関する会議が閉会となった。

2008年 国際ロータリー年次大会の参加報告

国際ロータリー第2510地区

PG 丸山 淳士

(札幌真駒内RC)

2008年6月15日から18日、米国カリフォルニア州ロサンゼルスにおいて、開催された年次大会に、第2510地区からおよそ30名の皆さんが参加しました。

14日土曜日午後、千歳空港を出発し、同日ロサンゼルスに到着し、恒例の「北海道ナイト」が開催されました。酒井ガバナー、渡邊ノミニーも参加し、長旅の疲れも吹き飛ばす楽しい一夜からプログラムが始まりました。

翌日の「日本人朝食会」には、飲み過ぎで欠席の会員もおりましたが、ほとんどの皆様が元気に参加いたしました。その後、午後1時からと午後4時からの2つのグループに分かれてオープニングセレモニーに出席し、第1日目を無事に終了しました。

翌日からは大会に出席するグループとメキシコ観光グループに分かれてのプログラムです。

年に一度各国から参加した友人と暖かい握手を交わし、友情の広場での交流と楽しく有意義な参加となりました。メキシコ行きが決まった経緯は、日本で関東以北只一人のメキシコ名誉領事、星野恭亮（札幌東RC会員）氏の存在がきっかけです。

サミットもあり、メキシコ外務大臣とも親交の深い星野会員にお願いして、この際メキシコとの親交も深めてこようということになった次第です。星野会員のご努力により、メキシコシティ到着時点から空港にメキシコ外務省の担当官が出迎え、スムーズに国賓待遇で空港を後にし、手配の車に乗車しそのまま市内観光、外務省での外務省関係者との懇談会も開催され、日本とメキシコの友好関係や今後の経済状況などについて話し合いがもたれました。

その後、これもメキシコ外務省のご厚意により、古いお城の跡地で現在はコロナビールのオーナーの豪邸に案内していただき、広大な敷地に昔のお城そのままの状態を再現した中での生活を拝見し、豪華な昼食をご馳走になりました。馬が30頭もいて、池有り森有りの昔の殿様の雰囲気そのままに驚きの一日でした。

翌日は、外務大臣と直接お話をする機会も与えられ、警備の厳しい外務省内をVIP待遇でご案内いただきました。またとない経験をし、14名一同感激した次第です。

来年は英国、バーミンガムです。皆様多数のご出席をお待ち申し上げます。報告とさせていただきます。



北海道ナイトでの酒井ガバナーの挨拶



北海道ナイトでの会食



開会式での日本国旗入場

2008—2009年度 | 地区委員会活動計画



地区オン・ツー・バーミンガム委員会

委員長
丸山 淳士
(札幌真駒内RC・PG)

1. 活動方針

韓国から急遽バーミンガムに開催地が変更になったこともあり、参加人員が減少することが危惧されている。そのため、例年以上に会員に対し、参加をアピールすることが求められている。あらゆる機会を通して、オン・ツー・バーミンガムをアピールするとともに、参加の方法や新しい情報を継続的に各クラブに提供していく。

2. 活動計画

- ①全クラブに「オン・ツー・バーミンガム委員会」または、「オン・ツー・バーミンガム連絡担当者」を置き、連絡を密に取っていく。
- ②今年度より地区委員会は各クラブ単位でのオン・ツー・バーミンガムを推奨し、それぞれのクラブが実情に沿った参加方法を選択していただくようお願いしていく。近隣地域のクラブ同士が連絡を取り合い、独自の方法で参加する方がより多数の参加を期待できるものと考えている。
- ③現地で「北海道ナイト」は、各クラブからの要請があれば地区委員会が設定する。
- ④常に新しい興味ある情報を、発信する。



地区文献資料室

委員長
肘井 博行
(札幌手稲RC)

1. 活動方針

現在のロータリーにふさわしい文献・資料の収集、整理に努める。

2. 活動計画

- ①旧文献の内、現在でも通用する資料についてはDV化など工夫する。
- ②数多くの会員に利用して戴くよう広報を工夫する。
- ③文献活用経験につき交流する。(ガバナー月信に投稿してもらうなど)



地区クラブ奉仕委員会

委員長
山本 雅章
(札幌手稲RC)

1. 活動方針

本年度の地区ガバナー方針に基づき、ロータリーの奉仕理念を追求しつつ、クラブ活性化に向けた協力体制を行っていききたい。

2. 活動計画

- ①クラブ・リーダーシップ・プラン (CLP) について
理想的なロータリークラブを運営するときの条件は、地域特性と、会員数にも大きく関係してくるものです。今まさに、クラブの管理組織の検討が叫ばれて枠組み、すなわち委員会構成を検討する時期にさしかかっています。地区内の各クラブがCLP導入にどの程度関わっているか、またどのような考え方をお持ちであるか調査をして、地区の方針の一助としたい。
- ②会員増強と退会防止について
地区目標である純増1名を確実にするための方策を模索し、各クラブに材料の発信をしたい。
- ③ロータリー情報について
ロータリーを理解するために新しい情報は欠くべからざるものであります。クラブや会員にとっての効果的な情報入手をIC委員会と協力して発信していきたい。



地区会員増強委員会

委員長
酒井 正人
(函館五稜郭RC・PG)

1. 活動方針

会員増強の趣旨を理解してもらうよう努め、矢橋ガバナーの地区目標を達成出来るように働きかけます。

2. 活動計画

- ①年度前に会員増強セミナーを開催(2008年6月1日)
- ②委員会委員(ガバナー補佐)に適宜グループ内の動向を報告してもらい、各クラブの会員維持につなげたい。
- ③年度末には次年度の委員会に協力して、会員増強セミナーを支援する。



地区IC委員会

委員長
光銭 健三
(北斗RC)

1. 活動方針

- ①インターネットを利用して情報交換を行うとともに各クラブに対して必要な情報を効率的に伝達する。
- ②地区ホームページの充実。
- ③地区委員会とクラブの距離を近づけるお手伝いをする。
- ④クラブのIT化への協力。

2. 活動計画

- ①メールマガジンの配信
 - ・RI、ロータリーの友などからインターネットを通じて流通する情報や地区内の情報、さらには他地区の有用な情報を速やかにガバナーはじめ地区内の会員に電子メールで配信する。
- ②地区ホームページの作成
 - ・地区からの情報および各グループ、各クラブからの情報を掲載し情報の共有化とロータリーの広報に寄与する。
 - ・各地区委員会と連携しクラブにとって地区が身近なものになるようにする。
 - ・速報性を生かし月信などの記事をより早くクラブに伝達する。
- ③インターネットの活用の普及促進
 - ・RIのホームページやROTARY JAPANのホームページ上にある情報の取得方法や利用方法を紹介する。
 - ・IT化が進んでいるクラブの実例を参考として紹介する。
- ③クラブホームページ作成のお手伝い
 - ・昨年度から行っているホームページ作成講習会「5分でできるホームページ作成」を今年度も継続的に行う。
- ⑤委員会メンバーの相互交流によりレベルアップを図る。
 - ・オンライン（インターネット上）、オフライン（直接会う委員会）で情報交換を行うことによりお互いのレベルアップを図り、所属グループや各クラブへフィードバックする。



地区職業奉仕委員会

委員長
綱木 保利
(苫小牧東RC)

1. 活動方針

- ①2008～09年度李東建RI会長のテーマは、「Make Dreams Real」（夢をかたちに）～世界の子供たちに光を当てよう～です。ロータリーの公式標語に忠実に、ロータリーの根幹とも言うべき「職業奉仕」理念に基づいて、ロータリアン

各自の職場、地域社会における奉仕の実践を通し、「夢をかたちに」の指針に応えるよう、“職業奉仕”の普及及び実践に努める。

- ②2008～09年度RI第2510地区矢橋温郎ガバナーの地区目標「3項目」に従い、各クラブで各職場でThe Four-Way Test（4つのテスト）の唱和がさらに積極的に行われるように、そして職業奉仕を通して“職業倫理をもう一度高める”ように見直すことを各クラブに奨励する。

2. 活動計画

- ①各クラブ会員に職業奉仕の意識が高まるよう、職業奉仕に関する「クラブ・フォーラム」・「勉強会」の実施を奨励する。
- ②職業奉仕に関する「クラブ卓話」での卓話者の要請に応える。
- ③職業奉仕に関する資料・文献などの配布または紹介を行い、各クラブの職業奉仕がより活発になるよう努力する。
- ④小中学校での出前授業・職場体験等、自己の職業経験を社会に還元する活動を奨励するため、何が出来るか検討しクラブの要請に応える。



地区社会奉仕委員会

委員長
阪崎 健治郎
(札幌西RC)

1. 活動方針

地区社会奉仕委員会は、基本的には前年度の活動方針を継承しながら推進していきます。またロータリーの活動の原点はロータリアン個人と各クラブの活動にあるということを再認識し、その上で従来までの活動を十分検証して継続すべき活動には誇りと自信を持って進化させ、もし一定の役割を終えたと判断した活動には勇断をもって休止し、フレッシュな精神で新しい活動を創造されることに期待を持っています。

ことに当年度は地域と緊密な関係を強化するために、近隣にある語らいの場の提供をお願いし、地域住民と地元ロータリアンとが自由な雰囲気でき語り合い、社会の様々な問題を共有しつつ考える「ロータリー・ファミリーハウス」の設置を検討してまいります。そこから多様な活動を発見し、開発し、社会奉仕の実をあげるように努めていきます。

2. 活動計画

- ①前年度に実施した各クラブの活動状況を入手し、それらを分類・分析してクラブ全体が当地区の社会奉仕活動の現状を把握する。
- ②同時に当年度に各クラブの活動計画を調査し、当地区の活動力を確認する。
- ③地区が定めたグループ（多少合併する場合がある）ごとに各委員長会議を開催し、活動報告と計画の進捗、並びに意見交換を7月中に行う。

④新規挑戦活動として、各クラブのある地域周辺にある集会所（例：お近くの喫茶店・カフェなど）をお借りし、自由に出入りする一般の地域住民とロータリアンとが歓談や交流の機会の可能性を検討する。これを「ロータリー・ファミリーハウス」と仮称し、提供者と交渉する。家庭問題や子どもの問題などを一緒に考えたり語り合ったりする場とする。

⑤この活動のために、地区社会奉仕委員会は理解いただくためのガイドラインと相手交渉のお願い状を作成し配布する。前半はその可能性の調査、後半は実施へと進む。年度終期には評価し、継続の可否を検討する。

⑥地区社会奉仕委員会専用のインターネットを立ち上げ、各クラブの活動の提供と閲覧を通して地区全体とのコミュニケーションをより豊かにしていく。各クラブは地区の活動情報をクラブ全員にできるだけ伝達をお願いしたい。



地区新世代委員会

委員長
松見 修二
(函館北RC)

1. 活動方針

- ①新世代のプログラムをロータリアン一人ひとりに広く理解して戴くことに努める。
- ②次世代を担う新世代の人々に今、ロータリーは何をすべきかを検証します。
- ③地区内各クラブへの新世代奉仕活動の拡大を図ります。
- ④新世代活動を広報に活用して促進を図ります。

2. 活動計画

- ①地区内各クラブの新世代委員会と情報交換を密にして地区委員会との連携を深めます。
- ②9月の『新世代のための月間』で“ロータリアンは青少年の模範”標語をクラブ会報や広報資料を活用されるように奨励します。
- ③高校生を中心としたインターアクト委員会で実践される世界平和の取組みを支援します。
- ④ロータリーアクト委員会が行動する、青年男女の奉仕を通じて親睦と国際交流を支援します。
- ⑤青少年交換委員会が実践するロータリー親善使節の留学学生交換プログラムを支援します。



地区 ローターアクト委員会

委員長
柳 孝一
(札幌南RC)

1. 活動方針

会員数およびクラブ数共に、減少傾向に歯止めがかからない現状をふまえ、地区レベルでのサポート状況を抜本的に見直し、ひとつのアクトクラブを複数のロータリークラブで提唱する方針に変換を図りたい。

2. 活動計画

- ①地区内を2ゾーンに分割する
各グループのガバナー補佐に協力していただき、提唱クラブの担当委員長、並びに会長・幹事にゾーン会議への出席を求め、情報交換に努める。
- ②各アクトクラブ運営の情報公開
現状では各クラブの予算等は公開されていない為、各提唱クラブはそのサポート体制を他と比較できない。会費・助成金等、地区内に公開し、各クラブのより充実した提唱体制を図る。
- ③その他
 - ・地区大会・地区協議会の2大行事の成功
 - ・第2500地区との交流会の実施とサポート
 - ・海外研修の内容充実、全国研修会への参加
 - ・地区新世代活動との協調（キャンプ等への参加）
 - ・ローターアクト週間（3月13日を含む1週間）のPR
 - ・休会中のアクトクラブの再開への働きかけ



地区 インターアクト委員会

委員長
戸部アナマリア
(札幌はまなすRC)

1. 活動方針

インターアクト・クラブは「奉仕と国際理解に貢献する世界的友好精神の中で相共に活動する機会を14才から18才迄の青少年に与える為」に結成されています。この方針を地区内ロータリアンの方々に理解していただき、インターアクト・クラブの活動により多くの協力、援助をしていただくように努力いたします。

2. 活動計画

- ①インターアクト年次大会の開催
- ②研修旅行の実施
- ③RI第2510地区地区大会への参加
- ④他地区のインターアクト・クラブとの交流を行う。
- ⑤地区インターアクト委員会（6回/年）を開催する。



地区青少年 交換委員会

委員長
宮崎 善昭
(札幌西RC)

1. 活動方針

オーストラリア、フィンランド、カナダ、アメリカと青少年交換を実施する。ロータリアンの子女も参加可能な国際プログラムであり、新世代育成に大きな効果が期待できること、ロータリークラブの国際性をアピールするプログラムとして、派遣生の増強を図っていくこととする。

2. 活動計画

- ①派遣生、受入生、各々7名（オーストラリア3名、フィンランド1名、カナダ1名、アメリカ2名）の実施
- ②歓迎会、送別会、壮行会の実施
- ③秋期キャンプ、研修旅行の実施
- ④派遣生オリエンテーションの実施
- ⑤地区大会、サッポロ・インターナショナル・ナイトへの参加
- ⑥派遣生募集広報の強化



地区世界社会奉仕 委員会

委員長
出村 知佳子
(札幌北RC)

1. 活動方針

第2510地区各クラブの皆様と共に、意義あるWCS活動を推進する。

2. 活動計画

各クラブの皆様へWCS支援について御理解頂き、事業に御参加頂けるようサポートをする。

- ①卓話、ガバナー月信、地区行事を通してWCS事業の意義や活動状況を紹介し、各クラブの皆様へ御理解を頂く。
 - ②WCS事業の実施をサポートして行く。（パートナー発掘、書類作成、検証等）
 - ③マッチング・グラント等の申請手続きのサポートをする。
- ※これらを通じ、参加希望クラブが意義あるWCS事業を実施できるよう全面的に支援する。



地区国際奉仕委員会

委員長
阿部 弘
(札幌北RC)

1. 活動方針

国際奉仕委員会は、世界社会奉仕委員会（WCS）と国際友好に関連する担当者が、それぞれの目的に合わせて効果的に活動ができるように最大限の支援を行う。すなわち、発展途上国を対象とした人道的支援プログラムが効果的に遂行できるように努める。また、外国地区との親善交流プログラムも支援する。

2. 活動計画

- ①世界社会奉仕委員会（WCS）の活動を全面的に支援する。
 - 1) WCSでは、すでにタイ国のチェンマイ・ノンカイなどの15事業を完了し検証した。現在は、スリランカ、モンゴル、インドネシアなどの事業を実施中である。これらの事業を無事に終了させることを第一の目標とする。
 - 2) アジア諸国からの援助要請を検討し、地区内の支援クラブを支援し、コーディネーターとしての役割を果たす。
 - 3) 過去のプログラムについて追跡調査をし、可能な限り検証活動を続けるよう努める。
- ②国際友好に関連しては、韓国の姉妹地区（RI第3700地区）と多面的な情報交換を行い、親善友好プログラムを企画し、両地区ロータリアンの積極的な交流を図る。
- ③国際奉仕活動のPRと各クラブにおける国際関連事業計画や活動報告のために作られた「国際奉仕委員会だより」を継続して発行してゆく。



地区米山記念 奨学委員会

委員長
大石 春雄
(札幌はまなすRC)

1. 活動方針

米山記念奨学会の指命は、「将来、日本と世界を結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成する事」と掲げられております。これをふまえて、多くの会員の方々に米山奨学事業について、理解を深めていただき、さらには奨学生に援助の手を差し伸べていただけるよう、卓話や交流の機会を増やし、米山奨学事業の意義と感動を理解いただけるよう積極的な活動をしていきたい。

2. 活動計画

- ①委員会活動がスムーズに行えるよう、年3回程度委員会を開催する。
- ②10月の米山月間には、奨学生をホストしていないクラブを訪問し、奨学生にスピーチをしてもらう。併せてより多くの奨学生を援助できるように寄付のお願いをする。
- ③地区大会はもとより、他団体及び他委員会の行事に積極的に参加し、交流を深める。
- ④地区内奨学生、及び学友、多くのロータリアンと家族の交流を深め、国際親善の一助としたい。



地区米山学友委員会

委員長
村上 淳
(札幌東RC)

1. 活動方針

2008—09年度のRIのテーマ「夢をかたちに」に則り、米山学友委員長として学友会員に対し「夢をかたちに」の実践の機会を増やし、「四つのテスト」に沿った活動を行うことを目指します。

2. 活動計画

以下の8項目の実践を目指して活動する予定です。

- ①米山学友会の名簿の最新版の更新
- ②学友会員との更なる交流と精神的支援の構築
- ③米山月間における各RCへの卓話
- ④米山記念奨学委員会主催の各種行事への積極的参加
- ⑤長沼RC主催の国際フェスティバルへの参加
- ⑥米山学友会総会及び懇親会の開催
- ⑦米山学友会の家族懇親会の開催
- ⑧機関紙「米山だより・北海道」の発行



地区ロータリー財団委員会

委員長
岩城 秀晴
(札幌南RC・PG)

1. 活動方針

ロータリー財団の基本方針に準じて、地区としてその方針を推進する。

財団への認識を高め、ロータリアンとしての財団に理解と協力を推進する。

2. 活動計画

- ①財団へ個人100ドル、クラブ1,000ドルを寄付する。
- ②恒久基金、使途指定、大口寄付、ポール・ハリス・ソサエティへの協力と推進
- ③各種プログラムに積極的に推進する。
- ④各小委員会のプログラムを推進する。
- ⑤2008—09年度の年次寄付目標は地区の会員数によって目標を定める。



地区国際親善奨学金委員会

委員長
菅原 秀二
(札幌大通公園RC)

1. 活動方針

ロータリー財団の教育プログラムである国際親善奨学金は、国際理解と世界平和を促進するために、1947年初めての奨学生を送り出しました。留学期間中、ロータリーの国際親善奨学生は、留学先のロータリークラブの会合に出席して、ホスト国の人々に対する親善使節としての役割を果たすことが期待されていますし、留学終了後には地元のホストクラブを中心に、留学中の体験について、報告することも期待されています。

当委員会では、こうした奨学生の選考とともに、留学に出发するまでのサポートもおこないますので、各クラブからの積極的な奨学生の応募を期待しますとともに、留学生を送り出すスポンサークラブになりました場合には、なお特段のご協力をお願いする次第です。

2. 活動計画

2008年

- | | | |
|-----|------------|--------------------------|
| 7月 | 09—10年度奨学生 | 第1回オリエンテーション (第1回委員会) |
| | 08—09年度奨学生 | 壮行会 |
| 8月 | 09—10年度奨学生 | 英文申請書作成指導 |
| 9月 | 09—10年度奨学生 | 第2回オリエンテーション (第2回委員会) |
| | 09—10年度奨学生 | 英文申請書、ロータリー財団本部へ送付 |
| 12月 | 10—11年度奨学生 | 募集要項・ポスター作成 |

2009年

- | | |
|------|--|
| 1月 | 第3回委員会(募集要項・ポスター確認・発送) |
| 3月 | 09—10年度奨学生 第3回(最終)オリエンテーション(1泊の合宿予定)(第4回委員会) |
| 5月 | 10—11年度奨学生候補者最終面接選考(第5回委員会) |
| 6~7月 | 09—10年度奨学生 壮行会 |

2010—2011年度奨学生選考日程案

- | | |
|----------------------|-------------|
| 募集要項・ポスター印刷完成・送付作業 | ……2009年1月 |
| 募集開始 | ……2009年2月中旬 |
| 各クラブへの申請書提出締め切り | ……4月上旬 |
| 各クラブから奨学金委員会への提出締め切り | ……4月末 |
| 書類審査 | ……5月上旬 |
| 面接選考 | ……5月下旬 |
| 合格発表 | ……6月上旬 |



地区GSE委員会

委員長
岡崎 芳明
(小樽南RC)

1. 活動方針

- ①地区内ロータリー会員に対して、研究グループ交換（GSE）事業の理解促進活動を積極的に行う。
- ②GSE事業の受け入れ、派遣に関わる費用の見直しを図り、GSE事業がより充実し、より多くの会員の参画を得て実施出来る環境作りを行う。
- ③地区ロータリー財団事業を地区内のロータリー会員に理解していただけるよう、地区ロータリー財団事業に対して協力をしていく。
- ④更に魅力あるGSEプログラムに改良するために、プログラム内容の充実を図る。

2. 活動計画

- ①今期は次年度（渡邊エレクト年度）に派遣受入が行われるGSEプログラムの対象国に派遣する派遣チームリーダーの選考をします。
- ②GSE派遣メンバーを広く募集し、派遣メンバー選考試験を行い派遣メンバーを決定します。
- ③毎月1回委員会を開催し、受け入れ派遣の準備に併せGSEプログラムの勉強と見直しを行います。
- ④第2510地区内のクラブに対してGSEプログラムの理解を深めて頂く為、積極的に卓話にのぞめる体制を整えます。
- ⑤下半期には次年度（2009年～2010年度）のGSE受け入れの為に受け入れグループとホスト・ロータリークラブを決定します。
- ⑥下半期に各受け入れグループのコーディネーターを選出して頂き、コーディネーター会を開催します。
- ⑦次年度のGSEプログラムは我が地区では初めての試みですが、重点的GSEプログラム（例えば福祉関係を中心とした方々のGSE等）を考えてみる予定です。



地区財団学友委員会

委員長
高橋 宣充
(札幌清田RC)

1. 活動方針

- ①財団学友会の活動に対する助言と支援。
- ②財団学友のロータリー活動への参加促進。
- ③財団学友に対する、会員の理解を深める。
- ④財団学友会活動の広報。

2. 活動計画

- ①委員会の開催
※年間4回の委員会を開催。活動計画の検討と確認を行う。
- ②第5回帰国財団学友報告会及び総会・懇親会の開催
開催日時：2009年2月前後予定
※留学した元財団親善奨学生と元GSE団員の派遣体験報告と帰国後の活動について発表する会
- ③財団学友のクラブ例会での卓話機会の増進
※クラブの要望に応じて学友が卓話を行い、ロータリー財団事業への理解を深め会員との交流を図る。
- ④財団学友会への賛助金拠出を推進
※財団学友の存在意義を高め、学友を活用すると共に賛助会員としてご支援を御願います。学友会の活動費として、クラブの賛助金は大きなウエイトを占めている。
- ⑤学友会活動状況を報告している『学友ニュースレター』発行の支援
※学友会設立以来、毎年発行している『学友ニュースレター』は、学友が学友会に興味と理解を深めていくと共に、ロータリアンのロータリー財団事業への理解を深めることに貢献しています。
- ⑥財団学友の地区大会への参加促進。
※スポンサークラブからの積極的な働きかけをお願いする事が重要です。多くの学友が参加して、国際ロータリーへの理解を深めてほしいものです。
- ⑦学友会名簿の改訂版の編集をおこなう。
- ⑧新規奨学生・GSEへの支援を実施する。



地区補助金委員会

委員長
須田 義雄
(札幌南RC)

1. 活動方針

地区の奉仕活動や人道的活動を支援する補助金申請に対し、その活動内容について審査する。委員会はロータリー財団の寄付の状況、クラブ自主申告の実績表を参考にし、ガバナー、財団委員長、担当委員に加え、監督委員の方も同席して厳正、且つ公平にその審査を行い決定する。

2. 活動計画

- ①申請書は財団セミナーの時、各クラブに配布してあるが、再度希望する場合は申し出れば、ガバナー事務所より発送する。
- ②申請書の受付は7月31日から翌年3月31日までである。
- ③ロータリー財団申請手続早見用引きを参照するが、成功の要件としてウェブサイト（www.rotary.org）を参照する事を勧める。
- ④地区の活動の条件を含め、クラブ独自の奉仕活動、地域に密着しての内容についてできるだけ相談に応じ助言する。
- ⑤この事は地元の報道機関を通じて、プロジェクト広報活動を積極的に取り上げてもらうように働きかける。
- ⑥補助金審査委員会を年に2回以上開催する。



**地区補助金
監督委員会**

委員長
中山 裕視
(札幌真駒内RC)

1.活動方針

補助金の使用は、ロータリアンの浄財寄付である大切なロータリー財団の資金です。

地区の奉仕活動や人道的活動を支援するために使用することが目的ですので、補助金の支出が効果的であり且つ適切に実行されることを監督いたします。

2.活動計画

- ①申請書審査の公平について
 - ②地域社会が参加し、プロジェクトが地域社会のものか
 - ③会員の3分の2以上から賛同を得られるプロジェクトであるか
 - ④クラブの負担、補助金の割合、会員の奉仕度合はどうか
 - ⑤ただの寄付又は賞品の提供などではないか
 - ⑥ロータリアン及びその関係者に補助金が使われていないか
- 以上の事を基本にして補助金使用、支出の監督をいたします。



ロータリーの友

地区委員
橋本 信夫
(札幌西RC)

1.活動方針

『友』の「地区たより」に第2510地区の特色を盛り込んだ記事を掲載する。また各クラブ・会員に本誌が親しまれ、ロータリー活動の情報源として広く利用されるようPRする。

2.活動計画

「ロータリーの友」には国内34地区、約10万人のロータリアンを対象に、国際ロータリーの動向や基本方針、国内各地区・各クラブの活動状況、会員の交流、地区大会の様子や卓話の要旨など、様々なロータリー情報が掲載されています。また本誌は国際ロータリーの日本地域雑誌として指定され、全会員が購読するよう求められています。

- ①本誌2009年4月号の「地区たより」(1月20日締切り)に、矢橋ガバナートと連携しながら第2510地区の特色を盛り込んだ記事を掲載する。
- ②本誌を、時代に即した問題意識や奉仕の志を深め、国際情勢や国内外のロータリアンとの連帯を促すための情報源として、各クラブ・各会員に広く読まれるようPRする。
- ③月信、第2510地区ホームページや「友」インターネット速報などを活用し、ロータリー理解推進月間(1月)、世界理解月間(2月)、ロータリー雑誌月間(4月)、地区大会(10月)などに合わせて本誌のPRキャンペーンを行う。

《例会曜日・例会時間・例会場の変更等について》

- 江別RC：8月14日(木) 休会(定款第5条第1節により)
8月21日(木) 納涼例会 19:00~
場所：原始林観光(江別市文京台31-4)
8月28日(木) 移動例会 12:30~
場所：野幌セレモニーホールはやし(江別市野幌町54-5)
- 江別西RC：8月5日(火)の例会を下記に変更。
8月2日(土) 移動例会「友愛夏祭り」 場所：静苑ホーム
- 岩見沢東RC：8月12日(火) 休会(7月24日の3クラブ合同納涼夜間例会の振替休会)
8月15日(金)~17日(日) お盆休み(ご用件のある方は、会長・幹事までお願い致します)
- 室蘭RC：8月14日(木) 休会(定款第5条第1節により)
8月28日(木)の例会を8月30日(土)に変更
- 室蘭東RC：8月13日(水) お盆休会
- 室蘭北RC：8月12日(火) 休会(定款第5条第1節により)
8月19日(火) 夜間例会「クラブフォーラム」 18:30~
場所：ホテルサンルート室蘭
- 苫小牧東RC：8月7日(木) 移動夜間例会「盛夏・納涼ビール祭」 18:00~
場所：ホテルサンルート苫小牧



始祖ポール・パーシー・ハリス

国際ロータリー第2510地区

PG 塚原 房樹

(札幌東RC)

《ごあいさつ》

北国も爽やかな夏を迎え、いよいよロータリーの新年度が始まりました。矢橋ガバナーはもちろんのこと、会長・幹事さんは、くれぐれも健康に気をつけられ、それぞれの任務を無事に果たされることを心からご期待申し上げます。

思えば1988-89年度、当地区のガバナーとして札幌東ロータリークラブより大橋康次会員が選ばれました。その時の月信に札幌西ロータリークラブの当時、情報資料室長をされていた岡崎純会員が、毎月、情報資料室ニュース、副題『ロータリアンナイト』というタイトルで麗筆をふるわれました。そのおかげで大橋ガバナーの月信は地区の内外から高い評価を得ることができました。

それから20年、札幌西ロータリークラブから矢橋温郎ガバナーが誕生されました。そして私に毎号、月信のコラムにロータリーに関する小文をとの執筆依頼がありました。非才な自分にはとうてい無理と躊躇しました。しかし20年前に岡崎会員にお世話になったご恩返しをしなければと思い返しお引き受けしました。とはいえ、岡崎会員の該博なロータリー知識に加え和漢の素養にも長じ、滋味掬すべき文章は到底私の及ばぬところです。まして“An old dog will learn no (new) tricks.” 老犬は(新しい)芸を覚えなれないといひます。そこで私なりに自分の学んだロータリーの雑学(Notes)を訥々と書き連ねてまいりたいと思います。

《“THE GOLDEN STRAND” 黄金の絆》

過去を知ることにより、未来への道は開けます。ロータリーの歴史を学ぶには国際大会議事録をはじめ、RI理事会議事録、各種会合の数々の報告書、関連資料があります。しかしこれらはあくまでロータリーの運営と組織管理規定の公式記録であり、主役である肝心のロータリアン不在で、個人の感動、情緒、情熱、哲学が埋没されています。その中で唯一とっていいくらい、日常のロータリーの人間像を生き生きと描いた本があります。

シカゴRCの60年の歴史を物語風に書き綴った、“THE GOLDEN STRAND”という本で、著者は(Oren Arnold)というシカゴRCの会員です。われわれが知っているロータリーの物語はすべてこの本に由来するといってもよいでしょう。幸い当地区の文献史料室に原書があったので10数年前、たどたどしい翻訳を試みました。ロータリーの先達が海図のない海をどのように航海してきたのかを、“THE GOLDEN STRAND”を中心にご紹介をしてみたいと思います。月信第1号では全世界のロータリアンが敬愛してやまないロータリーの始祖、ポール・ハリスに敬意を表して彼の素顔を垣間見てみましょう。

《同僚の見たポール・ハリス》

我々は、謹厳で知的な雰囲気の一見近寄りがない、ポール・ハリス像を写真で目にしています。しかし実像は少し違うようです。“THE GOLDEN STRAND”の著者(Oren Arnold)は始祖ハリスと同じシカゴRCの仲間でした。彼によると『創立

者は敬われるべきである。しかし現実の問題として、彼は白馬にまたがっていたわけでもなく、きらきら光る剣を振りかざしていたわけでもなかった。どちらかといえば、彼はごく普通の若者で、生計を立てるのに一生懸命で、外の仕事を引き受けるのには忙しすぎた。人々は彼を人は良いが、ぐずぐずするきらいがあるといいます。しかし彼はアイデアがひらめいたと同時に活動を起こしました。

彼は数人の仲間を呼び、自分の計画を伝えました。熱意は人の心を打つものです。みな一致賛同しました。そしてこのようにシカゴで、世界中で毎週一回の「黄金の時」すなわちロータリーの昼食会がやってくるのです。その若者がポール・ハリスでした（Oren Arnold）はハリスの印象とシカゴRC誕生の発端をこのように記しています。当時のロータリアンにとって、毎週一回のロータリーの例会はまさに「黄金の時」だったのです。

《会長職を辞任したハリス》 初期シカゴRCのお家騒動

1909年1月まで2年2期、クラブ会長を務める予定のハリスは、1908年10月に3カ月を残して突然辞任しました。ハリスの人柄が今まで我々が教えられていたものと大きく相違するのか、または我々が想像できないくらいクラブ運営に落胆、失望してしまったのでしょうか。シカゴRCの一触即発の危機は、ハリスの熱心なクラブ拡大に起因しています。ハリスはシェルドンとともにサンフランシスコRCを立ち上げようとしていました。

クラブの例会では、拡大状況の報告ばかりで、いつもゲストスピーカーの話す時間が残り少なくなっていました。「もうそんなナンセンスなことはやめろ。我々は西海岸で起こっていることに興味はないんだ。少数の会員がクラブを牛耳ろうとしている」出席率も低下し、乱闘騒ぎまで起きました。会員のDr.ネフの「後少しいよいよこのクラブもお陀仏だなあ」というセリフが残っています。例会の雰囲気が悪くなるとハリスが会長を辞任した後、急遽、会長に選ばれたハリー・ラグルスが、壇上に駆け上がり、“Come on, fellows, let's sing!”（諸君、歌おうよ!）と大声で叫びました。クラブの危機を乗り切らねばならぬ会員の気持ちを一つに結集させ、盛り上げる非常手段でした。これがロータリーソングの嚆矢となりました。

ポールの会長辞任でシカゴRCは解散するかもしれないという危機に見舞われたのに、それが無事にすんだのはシカゴRCの大勢の会員の努力があったのでしょうが、ハリー・ラグルスのソングがなかったら、今日のロータリーもどうなっていたかわからないのです。

《上杉謙信とポール・ハリス》

英雄色を好むといいますが、二人の共通点は、浮いた噂（女性の影）が全くないということです。ハリスの伝記をいくら読んで、異性に関しては幼年時代、櫛遊びをした時に会った女の子ジョージ・リリーについてのごく短い記述があるだけです。彼の関心事は女性よりロータリー運動にあったのでしょうか。

ジーン夫人と結婚したのは42歳の時でした。ハイキングで彼が有刺鉄線をくぐった時、上着にかぎ裂きができました。それを見たスコットランド出身の可愛い娘さんが、「私、直してあげるわ」。彼は彼女を見てインスピレーションに打たれました。ハリスの生涯唯一のロマンスでした。二人は子宝に恵まれず、国際ロータリーが二人の養子でした。ハリスはシカゴのマウントホープ墓地に、ジーン夫人は故郷スコットランドのエジンバラの墓地に眠っています。彼女の墓石には“SHE HATH DONE WHAT SHE COULD”と刻まれています。「ここに眠れるもの、まこと悔ゆることなき人生をおくれり」これは千種会の小堀憲介氏による名訳です。海を隔てていても二人は強いきずなで結ばれています。

ハリス夫人が「私たち二人は信仰によって永遠の力の中に結ばれている」と語ったように――。心よりお二人のご冥福を祈ります。



北海道のロータリー誕生と 第7グループの存在

地区ガバナー補佐（第7グループ担当）

羽芝 涼一

（千歳セントラルRC）

ロータリークラブ誕生と地域情勢

シカゴに誕生したロータリー（1905年）は、東京ロータリークラブ（1920年）を創立させ、1932年に日本で8番目のクラブとして札幌ロータリークラブを生み、やがて札幌クラブは小樽ロータリークラブをスタートに千歳ロータリークラブを1968年に誕生させた。以後別表の如く、恵庭ロータリークラブをスタートに10年毎に2クラブを誕生させていることに注目される。

北海道の道央圏に位置する第7グループは今や国際化時代、情報化時代という背景、特に新千歳空港という特殊な地域ということから国際社会との交流やインターネットに代表される国際情報化社会への変化に着目され、G8、J8の国際レベル会議や地球環境を守る為のアイドリッグ運動の展開で話題を集めている。

特に千歳・恵庭・北広島市は人口の増加に加え、ハイテク産業の進出にも著しいものがあり、交通アクセス、スポーツ競技場や会議を網羅したコンベンション施設、宿泊施設等、札幌に次ぐ諸施設が充実しており、今後将来に亘り利便性の優れたエリアでもあります。

7グループの特色と今後

設立時より会員数の減少したクラブもありますが、自由でのびのびと明るい親愛の雰囲気溢れるクラブの面々です。特に設立以来の継承事業である長沼クラブが提唱する長沼国際交流フェスティバルは、外国人との文化習慣の相互理解、世界と親善、世界平和を目指すロータリー活動の一端を強く地区内に発信しています。又、小粒な存在であるが由仁クラブは、街そのものが農業を基幹として古くから拓けた風光明媚な所でメンバーが街に土着しており、クラブ活動に敬老の日のイベントやスポーツ交流に熱い行動力が見られます。

私達の第7グループの活動は、交換留学生や世界社会奉仕（WCS）活動は勿論の事、とりわけ千歳セントラルロータリークラブの米山詣出があります。クラブ誕生以来、米山氏をよく理解する事によりロータリーを学ぼうと毎年生誕地を訪問。疲弊した記念館の新築寄付を始めた事です。それは当時のロータリアンの心に火を付け、東京ロータリークラブ中心として新館をオープンさせました。ご披露時には本家の東京ロータリークラブより前に千歳セントラルロータリークラブが表彰を受け、その証左に新館脇に千歳セントラルロータリークラブの植樹（梅吉翁の好んだ梅）がさん然と輝いているのを訪問される人々は見ることが出来ます。ここに東京～札幌～第7グループの偉大さがあると思います。

このような素晴らしい環境下にある第7グループとして夢をかたちに（国際ロータリー会長テーマ）を実現すべく、DLPやCLPの重要性についてグループ内クラブを数多くの機会に訪問し、理解と推進に努め、グループ内の結束は勿論のこと、お互いに問題点を共有しながら、出会い・友情・奉仕を確認していく所存でございます。

面白!比較

| クラブ名 | 創立 | 創立時会員数 | 2008.3会員数 |
|---------|-------|--------|-----------|
| 札幌 | 1932年 | 30名 | 124名 |
| 千歳 | 1968年 | 22名 | 64名 |
| 恵庭 | 1970年 | 23名 | 43名 |
| 北広島 | 1980年 | 22名 | 17名 |
| 千歳セントラル | 1990年 | 38名 | 35名 |
| 長沼 | 1991年 | 28名 | 19名 |
| 由仁 | 1992年 | 25名 | 10名 |

国際ロータリー第2510地区

2008～2009年度 地区大会のご案内

ガバナー 矢橋 温郎 大会実行委員長 八木 昌興

去る、7月15日に地区内のすべてのクラブに地区大会のご案内を送付いたしました。

ご案内のように、本会議における記念講演会では、経済事情に通じました寺島実郎氏とチョモランマ登頂に成功された三浦雄一郎氏に、我々ロータリアンに対して「夢をかたちに」するお話をさせていただく予定です。このような機会を是非ご利用頂き、ロータリアンとしての夢を皆で追うことが出来れば素晴らしいことだと考えております。

またRI会長歓迎晩餐会においては、美しい音楽を楽しんでいただく趣向を凝らしておりますので、ご期待頂ければ幸甚と存じます。

日程は以下の通りですが、記念行事も含めてお誘い併せの上多くの皆様のご参加を賜りますようお願い申し上げます。

2008年

10月13日(月) 記念囲碁大会日本棋院北海道本部

10月24日(金) 記念ゴルフ大会札幌南カントリークラブ

10月25日(土) 大会第1日ロイトン札幌

- 会長・幹事会
- 地区指導者育成セミナー
- RI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会

10月26日(日) 大会第2日ロイトン札幌

- 本会議
- 記念講演会(寺島実郎氏、三浦雄一郎氏)
- 記念懇親会北海道厚生年金会館
- スパウス・プログラムもございます。

大会への登録は、各クラブに配布してあります、登録用紙もしくは、地区ホームページに掲載の様式を利用して、大会事務局までお寄せ下さい。

なお、各クラブの幹事様にお願いをしてあります各クラブの紹介は、各クラブの登録者の掲載と併載する予定としております。地区大会の記録誌に掲載予定でありますので、お忘れの無いように、大会事務局までお寄せ下さい。

ご質問などは地区大会事務局までお寄せ下さい。

登録締め切り日

8月15日

各クラブで登録者を取りまとめ、期日までに下記地区大会事務局までお寄せ下さい。

地区大会事務局

〒060-0042 札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7階
国際ロータリー第2510地区 地区大会実行委員会事務局
TEL 080-3296-2510 FAX (011) 207-2512
e-mail: rid2510dcc2008@sc-ltd.co.jp

2011—2012年度 ガバナー・ノミニー候補者推薦のお願い

地区ガバナー 矢橋 温郎
地区ガバナー指名委員長 塚原 房樹

2011—2012年度地区ガバナー・ノミニー候補者として適格な会員があり、地区ガバナー指名委員会の審議を希望する地区内クラブは、12月1日必着にて、地区ガバナー指名委員長（地区ガバナー事務所気付）宛、文書（書式任意）をもってご推薦下さい。

なお、地区ガバナー・ノミニー資格条件については、国際ロータリー細則第15条第7節1項～5項及び第8節の資格条件に適合していることを要します。

[参考] 国際ロータリー細則第13条（ガバナーの指名と選挙）
国際ロータリー第2510地区 地区ガバナー指名委員会規定



(250号)

〔ロータリー文庫〕は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、2万余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

最近のロータリー情報より（1）

- ◎ [韓国のロータリー現況]
李 東均 2008 8p
(第9回ROTARY日韓親善会議報告書)
- ◎ [韓国新世代交流プログラムの昨日、今日、そして明日]
禹 鳳濟 2008 4p
(第9回ROTARY日韓親善会議報告書)
- ◎ [ロータリーを支えよう—真心込めて]
四津谷仁朔 2008 6p
(絆(IV))
- ◎ [世界はあなたを待っている]
関場慶博 2007 5p
(第12回ロータリー青少年交換研究会長崎会議報告書)
- ◎ [価値ある増強]
井上瑛夫 2008 5p
(D.2680 月信)
- ◎ [ロータリーの神髄]
深川純一 2008 12p
(D.2680 月信)
- ◎ [職業宣言]
鈴木政昭 2008 2p
(D.2800 月信)
- ◎ [2680地区2007～2008年度
ロータリー財団セミナー]
松下 衛 2007 10p
(D.2680 月信)

[上記申込先：ロータリー文庫(コピー/PDF)]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F
TEL(03)3433-6456 FAX(03)3459-7506

http://www.rotary-bunko.gr.jp
開館=午前10時～午後5時 休館=土・日・祝祭日

8月のロータリーレート 1ドル=〇〇〇円

ホームページでおなじみの 「源流」セミナーのご案内

会長・幹事さん、盛夏の候、お元気でご活躍のことと思います。

さて、全国のロータリアンが日頃ウェブサイト上でお世話になっている、田中毅PG主宰の第11回「ロータリー源流セミナー」が初めて札幌市で開催されることになりました。このセミナーは、ロータリーの奉仕理念を体系的に学ぶ場です。つきましては、この機会にクラブ会長・幹事ならびに地区委員の方々、またセミナーに興味のあるクラブ会員の方々に是非ご参加して戴きたくご案内申し上げます。

日時：2008年9月20日（土） 受付12:00～12:45

場所：札幌センチュリー・ロイヤルホテル「中央区北5条西5丁目」

参加費：セミナー ¥3,000 懇親会 ¥8,000

（参加費は当日受付にて申し受けます）

■セミナースケジュール・テーマ（予定）・講師

| | | |
|-------------|-------------|------------|
| 13:00～13:40 | 世界社会奉仕 | 小船井修一（PG） |
| 13:40～14:20 | 世界社会奉仕 | 笹谷 芳夫（G補佐） |
| 14:20～15:00 | 世界親睦活動 | 塚原 房樹（PG） |
| 15:00～15:40 | 3-H | 石井 良昌（PG） |
| 15:40～16:20 | 国際奉仕一般 | 田中 毅（PG） |
| 16:20～17:00 | 質疑応答 | |
| 17:30～19:30 | 懇親会（ホテル内移動） | 着席にて |

■源流セミナー主宰者：田中 毅PG

| | |
|-------|---------------|
| 世話人代表 | 関堂 勝幸（札幌東RC） |
| 世話人 | 小山 秀昭（札幌手稲RC） |
| 世話人 | 高橋 敏雄（札幌手稲RC） |
| 世話人 | 久末 満三（札幌手稲RC） |
| 世話人 | 阿部 光行（札幌手稲RC） |
| 世話人 | 松田 秀夫（札幌手稲RC） |
| 世話人 | 柳 孝一（札幌幌南RC） |

お問合せ先：関堂勝幸（札幌東RC：携帯番号090-8900-1113） ※申込締切：9月10日まで

第15回 GSE相手地区決定

このほど、当地区と国際ロータリー第2360地区（スウェーデン）との間において正式に2009～2010年度においてGSEを行うことが決まりました。受入・派遣の時期は2010年4～5月になる見込みです。

今回の派遣は、当地区では初めての試みとして、重点的GSEを企画しています。派遣メンバーの職業分野として社会福祉・医療介護の分野に携わる者に限定し、その効果を高めること狙いとしております。派遣チームリーダーや派遣メンバーの募集、また受入に際しては各クラブの皆様の世話になりますが何卒宜しく願い申し上げます。追って詳細を連絡させていただきます。

（地区GSE委員会 委員長 岡崎 芳明）

広報補助金のご案内

国際ロータリー理事会は、2008-09ロータリー年度に広報補助金試験的プロジェクトを継続することを承認しました。広報補助金は地区単位で支給され、一般の人々にロータリーを推進し、ロータリーの公共イメージを改善しようと努める地区を支援するために使用されるものです。2008-09年度、申請できる補助金は**最高10,000米ドル**までとなっており、資金が尽きるまで続けられます。

当地区では、広報プロジェクトに関心があるクラブからの広報プロジェクトを募集いたしますので、9月15日までにガバナー事務所宛にご提出下さい。

広報補助金申請に関する詳しい資料は、ガバナー事務所にございますのでご請求下さい。

地区ホームページの紹介

(<http://www.ri2510.gr.jp>)

地区IC委員会

委員長 **光銭 健三**

ri2510dico@kosen.or.jp (北斗RC)



IC委員会 (Internet Communication) の仕事の一つにインターネットのホームページを利用して会員の皆様に役立つ情報を提供することがあります。今回はRI第2510地区のホームページをご紹介します。正式にはウェブサイト (Web Site) やウェブページ (Web Page) という呼び方が正しいのですが日本ではホームページという呼び方が浸透してしまいましたので、ここではホームページと言うことにします。

地区のホームページは1998年から2001年まではそれぞれの年度でガバナー事務所が試行的に開設していました。2002年には正式にドメイン (ri2510.gr.jp) を取得して、文献資料室が担当し、2003年からIC委員会が担当して現在のようなホームページを運営しています。昨年度1年間のアクセス数は13302回でした。

地区のホームページには次の内容を掲載しています。

1. ガバナーのページ：毎月ガバナーからのメッセージ、地区目標、ガバナー月信、ガバナー公式訪問日程表、ガバナープロフィールなど
2. 第2510地区のページ：地区内クラブの詳細、地区組織一覧、地区カレンダー
3. 地区大会のページ：地区大会の日程、プログラムなど
4. ウェブオフィス：各種資料のダウンロード
5. リンク集：国際ロータリー、地区委員会、地区内クラブのホームページやその他役に立つホームページへのリンク
6. メールマガジン、メーリングリストの登録ページ
7. アーカイブス：過去の地区ホームページ (完全保存)
8. その他：例会变更のお知らせやガバナー訪問、委員会、地区行事等の写真と記事

これらのコンテンツの中で他の地区のホームページにはない特徴は、過去のホームページの内容をガバナー月信を含めて完全に保存していることです。これにより情報提供が目的だったホームページが有用な資料として保存され、過去の地区大会をはじめ、地区行事の内容やガバナーのメッセージ等々、地区の歴史とも言える多くの情報を知ることが出来ます。

メールマガジンは登録会員やクラブに対してインターネットのメールを利用して情報を送るものでIC委員会の委員が分担して送信しています。現在登録している会員数は約500名で、内容は地区ホームページの更新情報、RIやロータリーの友からの最新情報やロータリーレートの情報などで、速報性を重視しています。

メーリングリストはメールを利用して情報や意見を交換するもので、現在175名の会員が登録しています。

IC委員会ではホームページやメールマガジンを通して、さらに多くの役立つ情報を提供させていただきますので、多くの皆様に活用していただきたいと思います。

また、各クラブのIT化やホームページ開設についてなどのご相談もお待ちしております。

地区カレンダー（8月・9月）

| 8月 会員増強・拡大月間 | |
|--------------|---------------------------------------|
| 1 (金) | 公式訪問（小樽南RC） |
| 2 (土) | |
| 3 (日) | |
| 4 (月) | 公式訪問（札幌大通公園RC） |
| 5 (火) | 公式訪問（岩見沢東RC） |
| 6 (水) | 第1回WCS委員会（札幌） |
| 7 (木) | 公式訪問（由仁RC） |
| 8 (金) | |
| 9 (土) | |
| 10 (日) | |
| 11 (月) | |
| 12 (火) | |
| 13 (水) | |
| 14 (木) | |
| 15 (金) | |
| 16 (土) | |
| 17 (日) | |
| 18 (月) | |
| 19 (火) | 公式訪問（深川RC、妹背牛RC） |
| 20 (水) | 公式訪問（留萌RC、羽幌RC、小平RC） |
| 21 (木) | |
| 22 (金) | |
| 23 (土) | |
| 24 (日) | |
| 25 (月) | 公式訪問（蘭越RC） |
| 26 (火) | 公式訪問（小樽RC） |
| 27 (水) | 公式訪問（余市RC） |
| 28 (木) | 公式訪問（岩内RC） （財）ロータリー米山記念奨学会評議員会（東京） |
| 29 (金) | 地区野球大会（岩見沢） |
| 30 (土) | |
| 30 (土) | |
| 31 (日) | |

| 9月 新世代のための月間 | |
|--------------|------------------------------------|
| 1 (月) | |
| 2 (火) | 公式訪問（伊達RC、室蘭北RC） |
| 3 (水) | 公式訪問（室蘭東RC、登別RC） |
| 4 (木) | 公式訪問（室蘭RC） |
| 5 (金) | 公式訪問（洞爺湖RC） |
| 6 (土) | |
| 7 (日) | 滝川RC創立50周年記念式典（滝川） 第2グループIM（滝川） |
| 8 (月) | 公式訪問（三石RC） |
| 9 (火) | 公式訪問（浦河RC、様似RC） |
| 10 (水) | 公式訪問（静内RC） |
| 11 (木) | 公式訪問（えりもRC） |
| 12 (金) | |
| 13 (土) | 第6グループIM（岩内） |
| 14 (日) | 第1回ガバナー・エレクト研修セミナー（東京） |
| 15 (月) | |
| 15 (月) | 敬老の日 |
| 16 (火) | 公式訪問（千歳セントラルRC） |
| 17 (水) | 公式訪問（恵庭RC） |
| 18 (木) | 公式訪問（小樽銭函RC） |
| 19 (金) | 公式訪問（札幌あけぼのRC） |
| 20 (土) | |
| 21 (日) | |
| 22 (月) | |
| 23 (火) | 秋分の日 |
| 24 (水) | 公式訪問（倶知安RC） |
| 25 (木) | |
| 26 (金) | 函館北RC創立45周年記念式典（函館） 公式訪問（苫小牧RC） |
| 27 (土) | |
| 28 (日) | |
| 29 (月) | 公式訪問（長万部RC、函館亀田RC） |
| 30 (火) | 公式訪問（函館東RC、函館五稜郭RC） |

世界のロータリーマガジンから

世界各地で、多くのロータリーマガジンが出されている。世界共通の話題が提供されていることも多いが、想像だにしない記事にも遭遇する。今まさに北海道で開催されているサミットの議題の1つに国際社会の格差問題がある。第2510地区、所属クラブとしても長年、発展途上国援助に真剣に取り組んでいるが、その取り組みにヒントになるような記事を見つけることができた。オーストラリアを中心に発行されているROTARY DOWN UNDERの7月号に掲載されたOperation Uplift! (持ち上げ大作戦) という記事である。本作戦の中心人物のロータリアン、Liz Bakerさんと頭上からぶら下がるカラフルな「B?」の写真に目を奪われて記事を読んでしまった。観光地としても名高いフィジーやトンガ、バヌアツに対する援助である。あちらのご婦人は、大変立派な体格をされていることは、ご承知のことと思う。しかもニュース等の映像でもご婦人が一家の働き手として頑張っておられる様子を見ることが多い。極めて湿度の高い現地の風土の下では当然、汗がしたたり落ちる。皆さんも、炎天下の労働の際、下顎から、首をつたって、汗が胸の中央に流れることを経験したことがおありと思う。これが、かの国の気候風土で、繰り返しおこると、胸壁に湿疹、そして真菌(カビ)の感染、最後は膿瘍の形成と進行し、深刻な健康問題となってしまうらしい。ここで、「ブラジャー; B」の登場である。「B」をつけることによって、空気の流通がよくなり感染症を予防することが可能になるらしい。たかが「B」であるが、収入の殆どを食料にあてなくてはならない現地の事情からすると、約10時間の労働賃金に相当する新品の「B」の購入は難しいようである。この作戦は大成功でこれまで約3万8千個の「B」(新品および中古品; 中古品の場合、輸入税がかからない)をフィジーに送ったとの事である。この作戦を契機に、材木工場などで、裸足で作業する人のためにブーツを送る「裸足よりましキャンペーン; better than bare-foot campaign」が開始されている。かの国のニーズを理解し、単なるほどこしではない手の差しのべかたである。現地の事情に疎い小生にはびっくり仰天の記事であった。(地区幹事)

編集後記

ガバナーの重要な任務の一つにガバナー月信を各月、地区内各クラブの会長・幹事宛に発行しなければならぬとRI細則に定められている。主たる内容は会員数、出席報告を始め、地区諸行事、特筆すべき地区内クラブの功績等である。

ガバナーによると、日本国内の全てのガバナーが月信をお互いに交換し合い、他地区の情報伝達を得て刺激し合うのだと言う。事実、7月に入ってから各地区より続々と送られて来る。しかしその体裁、内容は千差万別。誠にシンプルな単なる書簡程度のものであれば、一方では贅を尽くした雑誌まがいのものもある。それぞれ各地区のガバナーの人柄、地区の活発さ、地区幹事の意欲等色々透けて見える。おそろかに出来ぬと感じた。

本号より2本の連載物を提供します。1本は地区きっての知性、塚原パストガバナーです。昨今ロータリーの思想の伝承に危機を感じている識者が大勢います。それらの人々に背を押され、塚原パストガバナーに是非にと筆を執って戴く事を快諾して戴きました。ロータリーキャリアが長い人にも、新しく入会された人にも多少のロータリーの知識さえあれば十分に理解して戴けるようお願い致しました。本号より12回に分け連載していきます。

最初の原稿を拝読させて頂きましたが、長丁場の序章ともいうべきものです。是非ご期待下さい。

別のシリーズは12名の地区ガバナー補佐の面々による担当しているグループの紹介記事です。編集人としては、ありきたり

のものでなく何かユニークなお話又は特筆すべき活動等を提供戴くよう注文しております。各々個性溢れるガバナー補佐です。これ又ご期待を。

トップを切って論客の羽芝ガバナー補佐(千歳セントラルRC)にお願いしたところ、ご快諾戴き、早速め切前に原稿を頂戴した。心より感謝します。

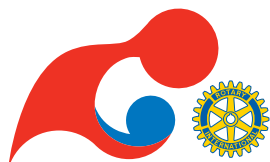
それを読んで参考の為、幾つかの資料を調べて驚いた事がある。1996年にポール・ハリス没後50年を記念して故西條パストガバナーを長として地区史が編纂された。そのクラブ編、千歳セントラルRCの紹介ページの「クラブの沿革と特徴」というタイトルの中に次の様な一文が載っている。

引用すると『昨年は千歳セントラルRCも創立5周年記念式典を挙げるにあたり、次世に誇れる魅力あるロータリーとして新しい価値ある創造に向けて「夢」を「かたち」に変えて素晴らしい奉仕をすることを10年、30年に向かって努力するクラブです(原文のまま)』との一節があった。

文中、「夢」「かたち」と出て来る事に驚愕したのだ。文意のニュアンスに多少の違いはあれ、その10年後の今年のRI会長のテーマそのものではないか。この一文を執筆された方がどなたかは存じ上げないが、多分当時、千歳セントラルRCの要職にいらっしゃった方でありましょう。その先見性に改めて驚くと同時に大いなる敬意を表するものである。(大金)

ガバナー事務所

〒060-0042 札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F TEL(011)207-2510 FAX(011)207-2512
E-mail: rid2510@nifty.com 執務時間: 10:00~17:00(土・日・祝祭日休み)

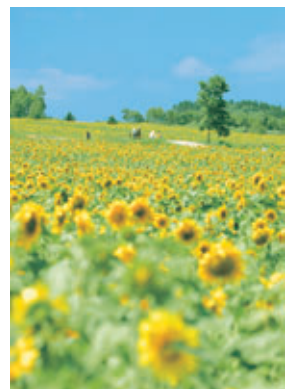


Make Dreams Real

夢をかたちに

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510
2008～2009

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



表紙：北竜町のひまわり
撮影：田宮 哲夫 札幌西RC